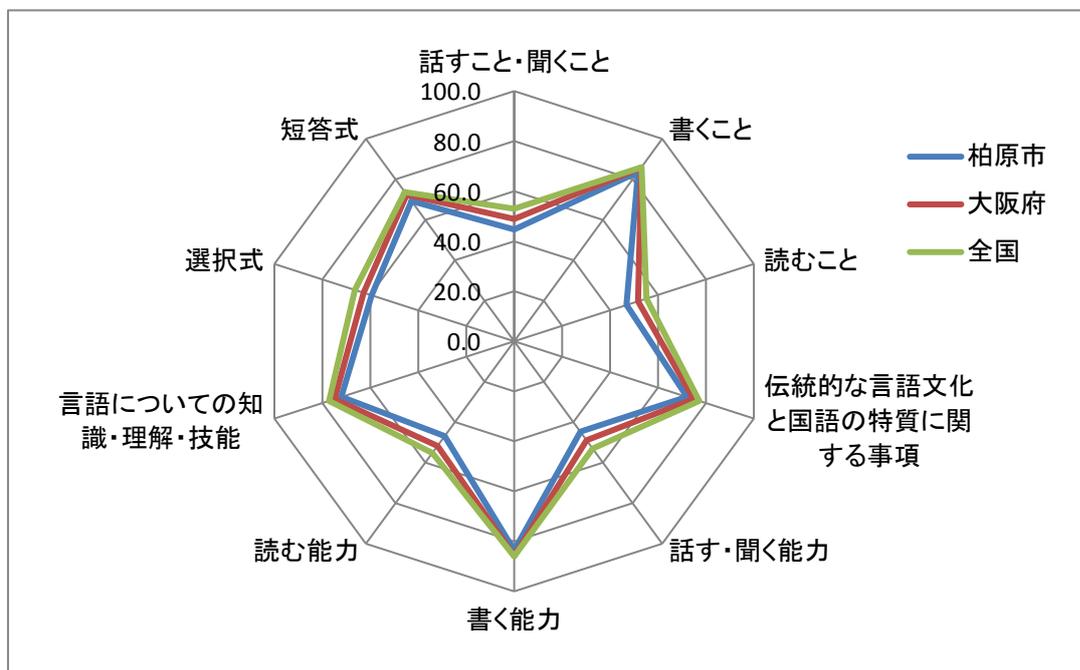


**平成27年度全国学力・学習状況調査
柏原市における結果の概要について**

各教科別の調査結果の概要

①小学校国語A(主として「知識」に関する問題)

	平均正答率(%)
柏原市	64.4
大阪府(公立)	67.6
全国(公立)	70.0



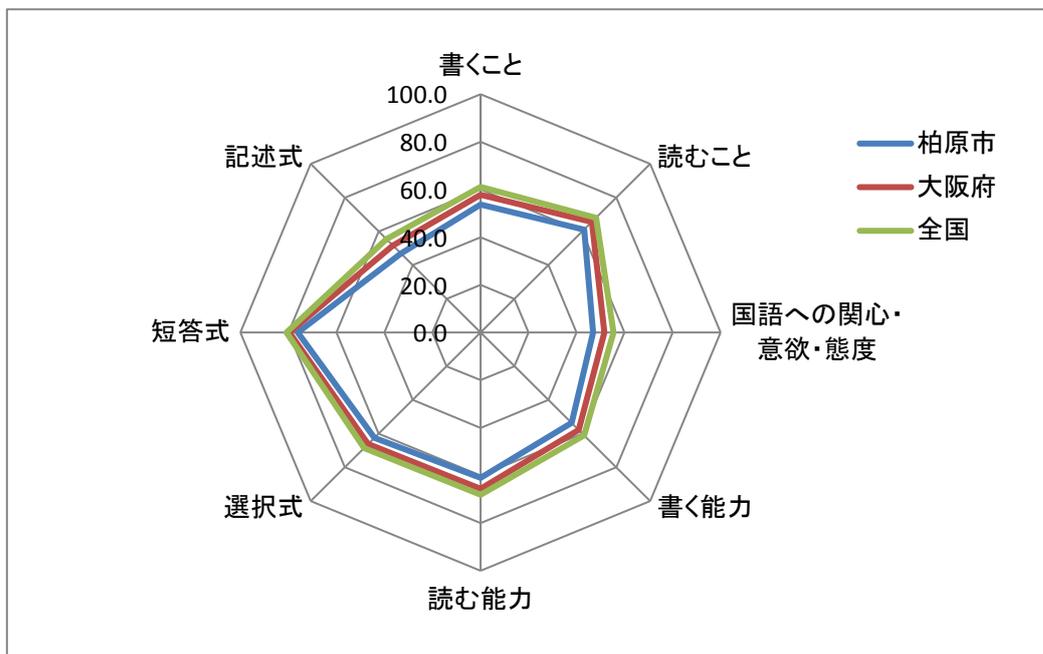
各項目については以下の表にあるように3つの視点から分類されています。

分類	区分	対象設問数(問)
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	1
	書くこと	1
	読むこと	4
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	9
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	0
	話す・聞く能力	1
	書く能力	1
	読む能力	4
	言語についての知識・理解・技能	9
問題形式	選択式	7
	短答式	7
	記述式	0

領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国・府と同じ傾向が見られます。「話すこと・聞くこと」「読むこと」に課題が見られます。漢字を読むことは、相当数の児童ができています。話の内容に対する聞き方を工夫することや、作品募集の案内の中から必要な情報を読み取ることに課題があります。

②小学校国語B(主として「活用」に関する問題)

	平均正答率(%)
柏原市	58.6
大阪府(公立)	62.7
全国(公立)	65.4



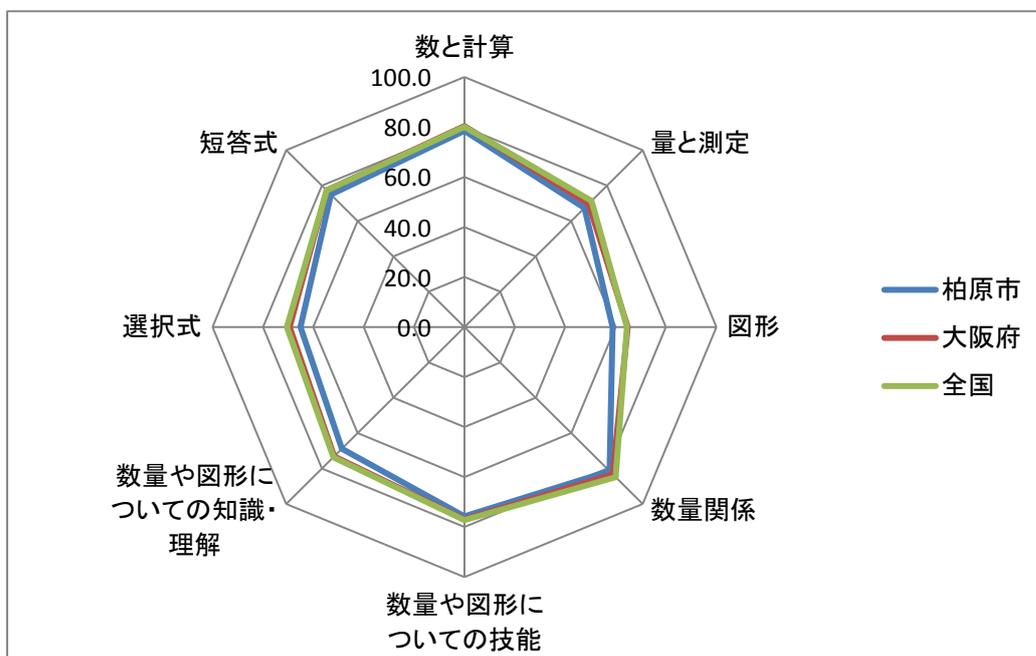
各項目については以下の表にあるように3つの視点から分類されています。

分類	区分	対象設問数(問)
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	0
	書くこと	6
	読むこと	6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	0
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	4
	話す・聞く能力	0
	書く能力	6
	読む能力	6
	言語についての知識・理解・技能	0
問題形式	選択式	3
	短答式	2
	記述式	4

領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国・府と同じ傾向が見られます。「書くこと」「読むこと」ともに課題が見られます。特に、目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書くことや、文章と図とを関連付けて自分の考えを書くこと、登場人物の気持ちの変化を想像しながら音読するときの工夫を考えることに課題があります。

③小学校算数A(主として「知識」に関する問題)

	平均正答率(%)
柏原市	71.9
大阪府(公立)	74.8
全国(公立)	75.2



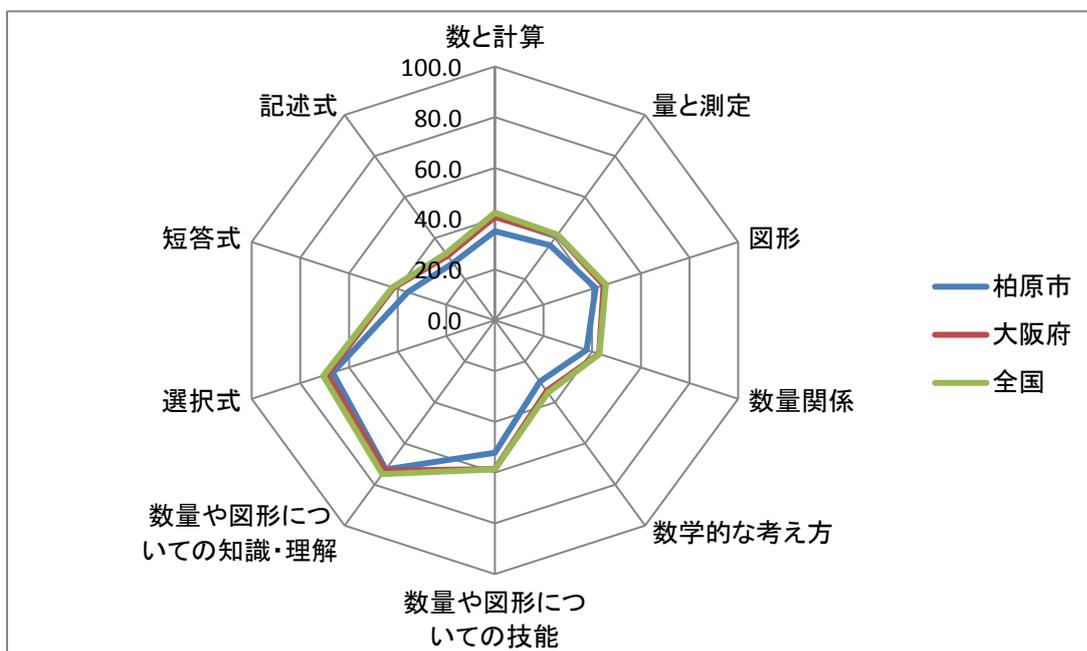
各項目については以下の表にあるように3つの視点から分類されています。

分類	区分	対象設問数(問)
学習指導要領の領域	数と計算	7
	量と測定	3
	図形	4
	数量関係	2
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0
	数学的な考え方	0
	数量や図形についての技能	7
	数量や図形についての知識・理解	9
問題形式	選択式	5
	短答式	11
	記述式	0

領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国・府と同じ傾向が見られます。特に「図形」に課題が見られます。整数・分数の計算や、式で表現された数量の関係を図と関連づけて理解することは、相当数の児童ができています。示された三角形が二等辺三角形になる根拠を円の性質と関連付けて判断することや、示された見取図の情報を基に展開図に必要な面の大きさを読み取ること、見取図と展開図を関連付けて立体図形の辺や面の位置関係を判断することに課題があります。

④小学校算数B(主として「活用」に関する問題)

	平均正答率(%)
柏原市	39.9
大阪府(公立)	44.1
全国(公立)	45.0



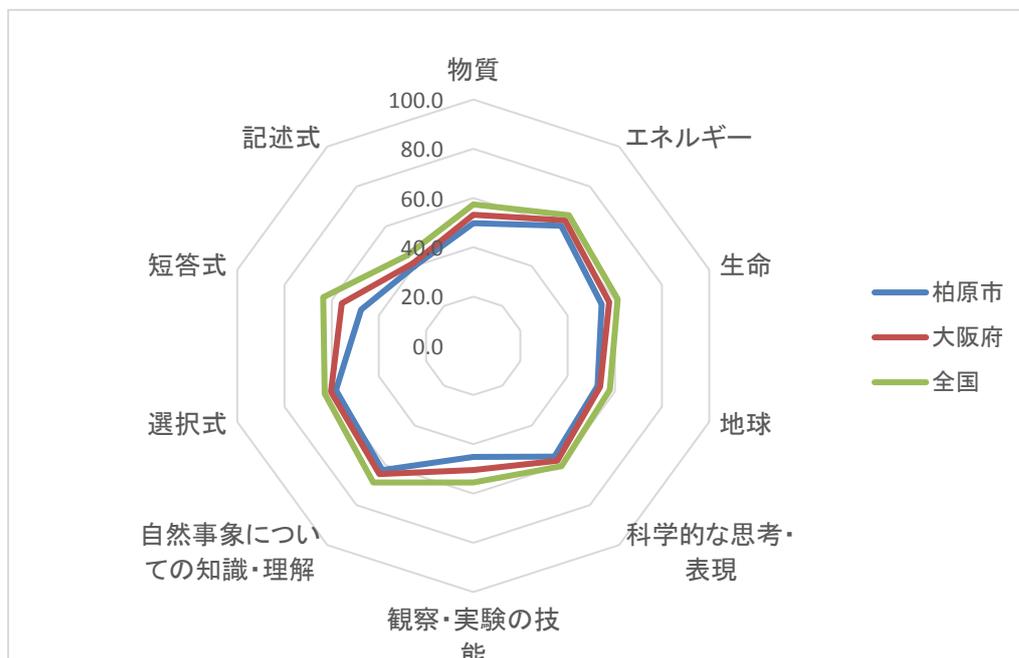
各項目については以下の表にあるように3つの視点から分類されています。

分類	区分	対象設問数(問)
学習指導要領の領域	数と計算	4
	量と測定	3
	図形	7
	数量関係	3
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0
	数学的な考え方	9
	数量や図形についての技能	2
	数量や図形についての知識・理解	2
問題形式	選択式	3
	短答式	5
	記述式	5

領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国・府と同じ傾向が見られます。「数と計算」「量と測定」「数量関係」に課題が見られます。平行四辺形を構成することができる辺の組み合わせを正しく判断することは相当数の児童ができています。筋道を立てて考えること、判断した理由を記述すること、基準量・比較量・割合の関係を正しくとらえることに依然として課題が見られます。

⑤小学校理科

	平均正答率(%)
柏原市	54.6
大阪府(公立)	57.3
全国(公立)	60.8



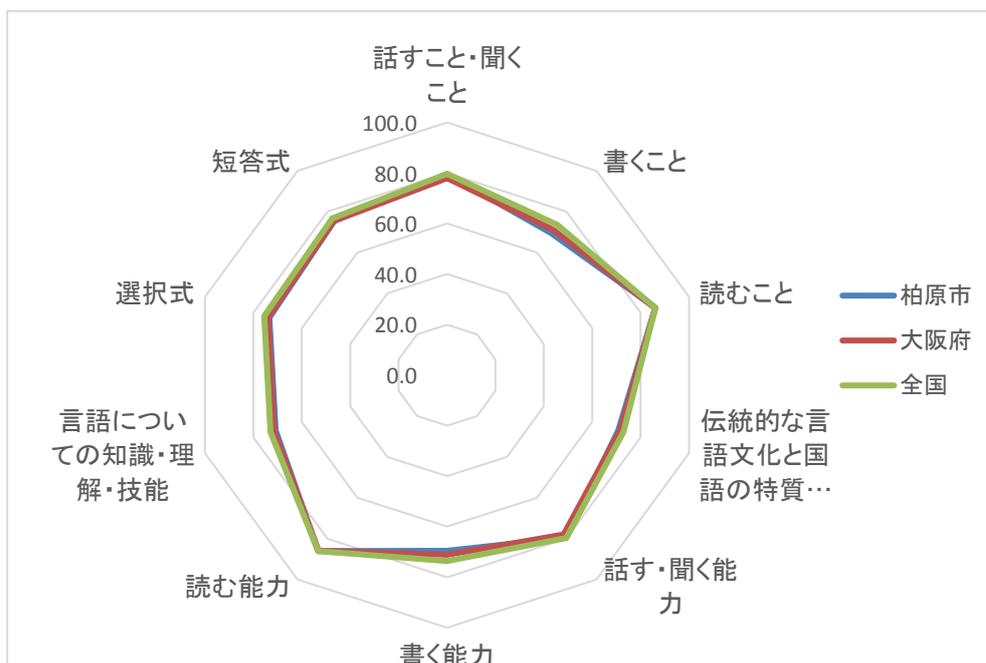
各項目については以下の表にあるように3つの視点から分類されています。

分類	区分	対象設問数(問)
学習指導要領の区分等	物質	7
	エネルギー	6
	生命	6
	地球	7
評価の観点	自然事象への関心・意欲・態度	0
	科学的な思考・表現	15
	観察・実験の技能	5
	自然事象についての知識・理解	4
問題形式	選択式	18
	短答式	3
	記述式	3

「観察・実験の技能」「短答式」において、全国より10ポイント以上、低い値を示しています。区分では「物質」「生命」において課題が見られます。観察・実験で扱う器具の名称及びその適切な操作技能に関する知識の定着や、科学的な言葉や概念の理解に課題があります。また、実験結果を基に考察して分析することに課題があります。

⑥中学校国語A(主として「知識」に関する問題)

	平均正答率(%)
柏原市	74.0
大阪府(公立)	74.4
全国(公立)	75.8



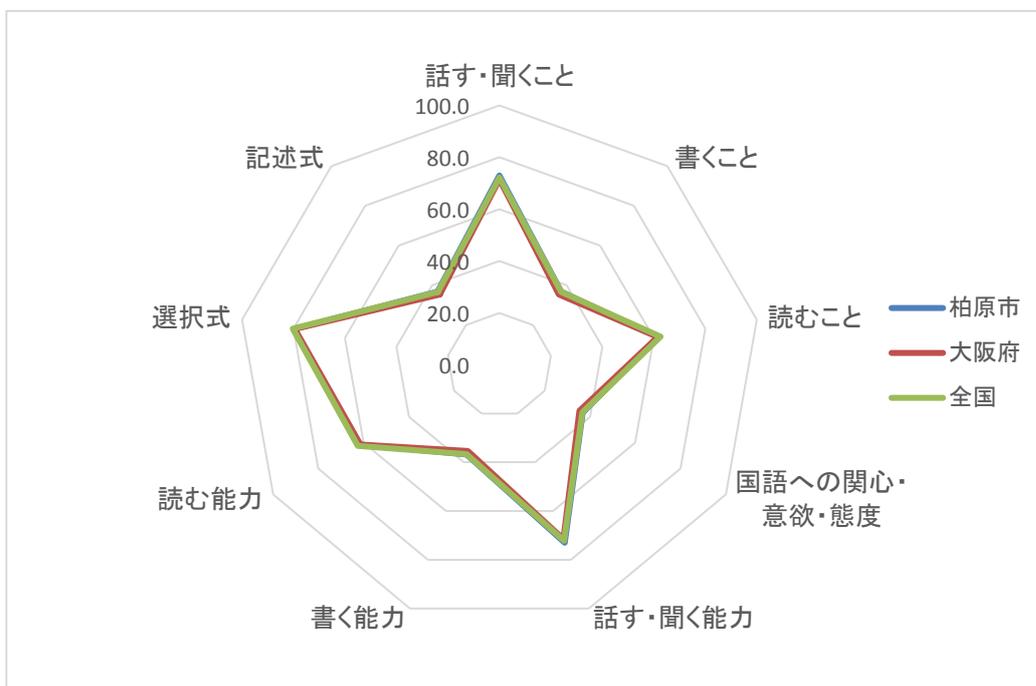
各項目については以下の表にあるように3つの視点から分類されています。

分類	区分	対象設問数(問)
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	4
	書くこと	5
	読むこと	5
	言語事項	19
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	0
	話す・聞く能力	4
	書く能力	5
	読む能力	5
	言語についての知識・理解・技能	19
問題形式	選択式	23
	短答式	10
	記述式	0

領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国・府と同じ傾向が見られます。「話すこと・聞くこと」は全国並みであり、府平均を上回っています。「書くこと」に課題が見られます。登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解することは相当数の生徒ができています。単語の類別についての理解や、手紙の書き方を理解して書くことに課題があります。

⑦中学校国語B(主として「活用」に関する問題)

	平均正答率(%)
柏原市	65.4
大阪府(公立)	64.8
全国(公立)	65.8



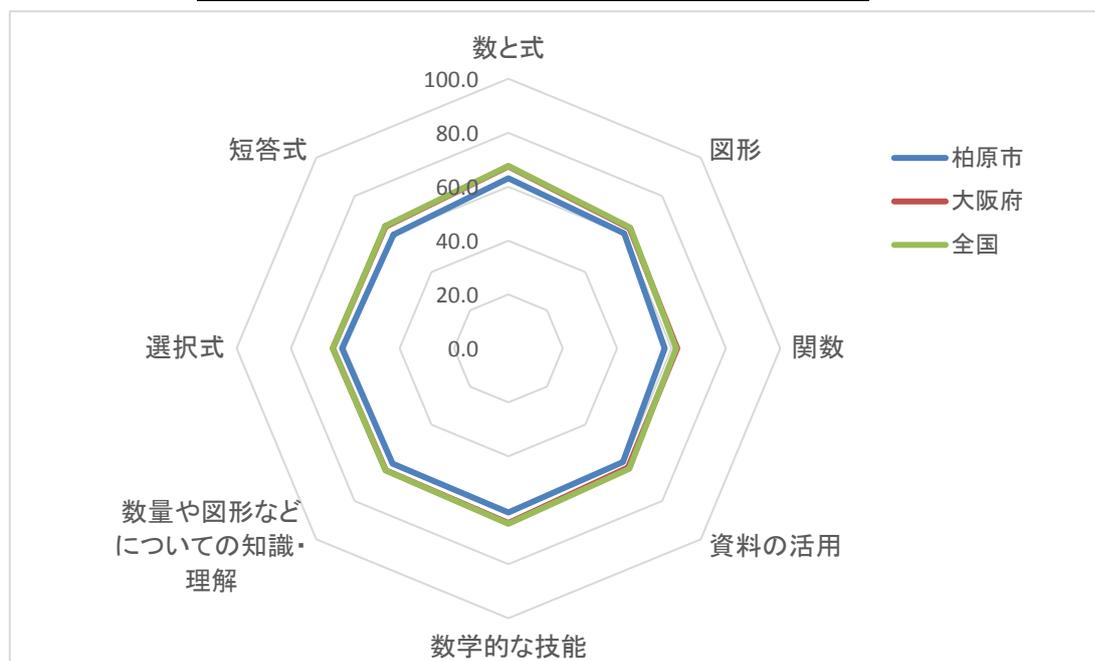
各項目については以下の表にあるように3つの視点から分類されています。

分類	区分	対象設問数(問)
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3
	書くこと	3
	読むこと	6
	言語事項	0
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3
	話す・聞く能力	3
	書く能力	3
	読む能力	6
	言語についての知識・理解・技能	0
問題形式	選択式	6
	短答式	0
	記述式	3

領域・観点・問題形式の状況は概ね全国・府と同じ傾向が見られます。すべての項目で府平均を上回っています。効果的な資料を作成し、活用して話すことや、表現の工夫について自分の考えをもつことについては相当数の生徒ができています。一方、文章の構成や展開などを踏まえ、根拠を明確にして自分の考えを書くことに課題が見られます。

⑧中学校数学A(主として「知識」に関する問題)

	平均正答率(%)
柏原市	60.5
大阪府(公立)	64.3
全国(公立)	64.4



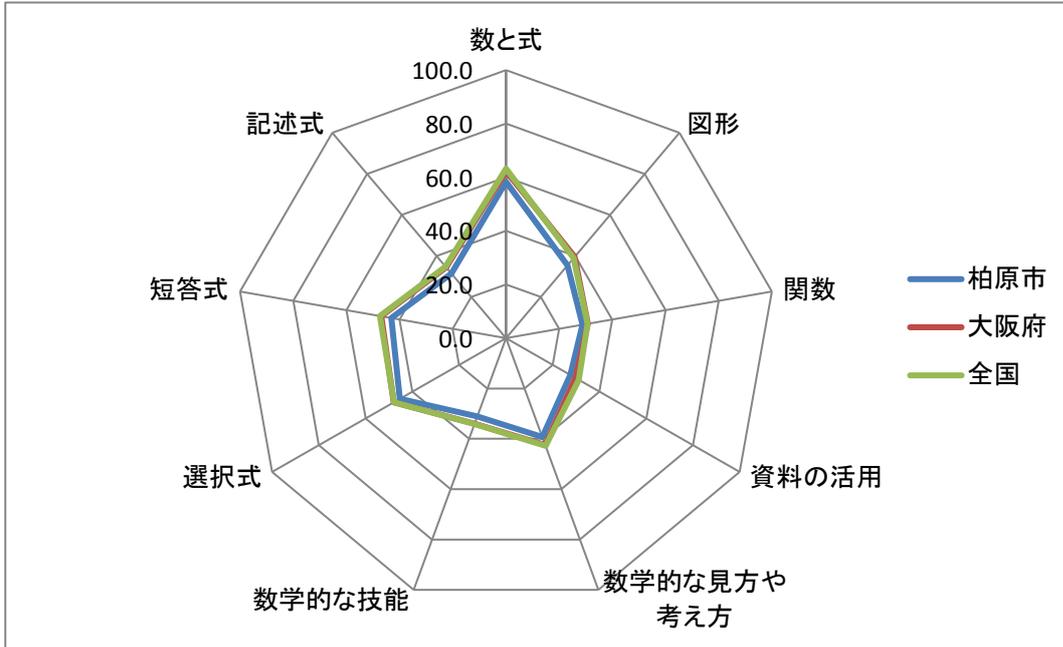
各項目については以下の表にあるように3つの視点から分類されています。

分類	区分	対象設問数(問)
学習指導要領の領域等	数と式	12
	図形	12
	関数	8
	資料の活用	4
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0
	数学的な見方や考え方	0
	数学的な技能	15
	数量、図形などについての知識・理解	21
問題形式	選択式	18
	短答式	18
	記述式	0

領域・観点・問題形式別の状況は、全国・府と同じ傾向が見られます。特に「数と式」「関数」に課題が見られます。一次式の減法の計算や、時間と道のりの関係を表すグラフから与えられた時間における道のりを読み取ることは相当数の生徒ができています。数量の関係を文字式に表したり、与えられた比例のグラフからxの変域に対するyの変域を求めたりすることに課題があります。

⑨中学校数学B(主として「活用」に関する問題)

	平均正答率(%)
柏原市	38.2
大阪府(公立)	41.4
全国(公立)	41.6



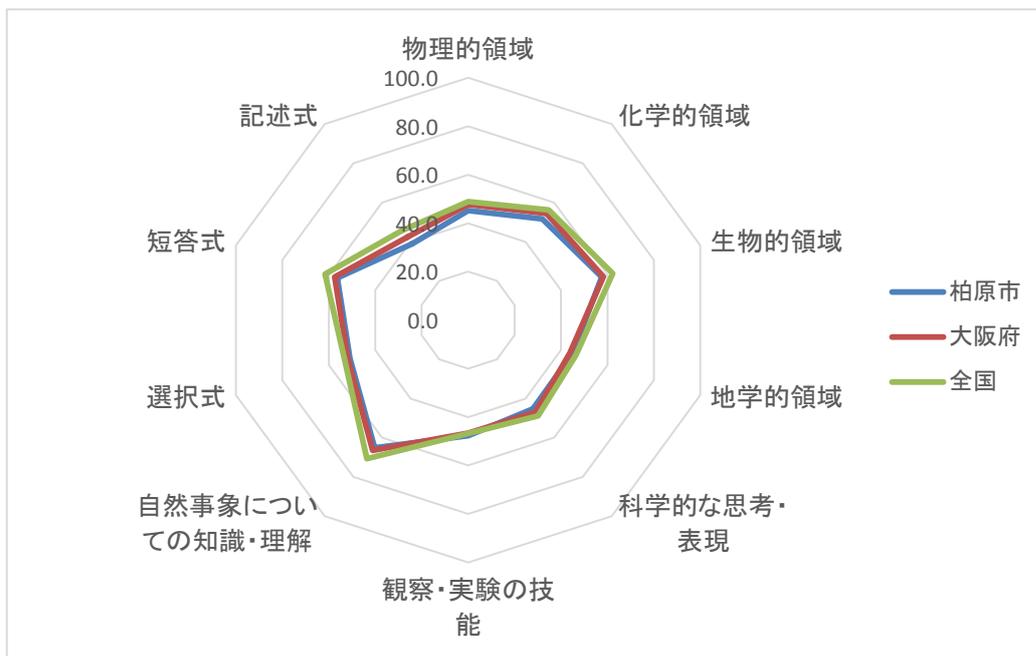
各項目については以下の表にあるように3つの視点から分類されています。

分類	区分	対象設問数(問)
学習指導要領の領域等	数と式	4
	図形	4
	関数	5
	資料の活用	2
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0
	数学的な見方や考え方	13
	数学的な技能	2
	数量、図形などについての知識・理解	0
問題形式	選択式	4
	短答式	4
	記述式	7

領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国・府と同じ傾向が見られます。「数と式」「図形」「資料の活用」に課題が見られます。数学的な表現を用いて理由を説明したり、与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理したりすることに課題があります。

⑩中学校理科

	平均正答率(%)
柏原市	49.4
大阪府(公立)	50.8
全国(公立)	53.0



各項目については以下の表にあるように3つの視点から分類されています。

分類	区分	対象設問数(問)
学習指導要領の分野等	物理的領域	7
	化学的領域	7
	生物的領域	6
	地学的領域	6
評価の観点	自然事象への関心・意欲・態度	0
	科学的な思考・表現	18
	観察・実験の技能	2
	自然事象についての知識・理解	5
問題形式	選択式	16
	短答式	4
	記述式	5

領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国・府と同じ傾向が見られます。特に「化学的領域」「生物的領域」で課題が見られます。基礎的・基本的な知識・技能を活用し、グラフ・資料などに基づいて自他の考えを検討して改善することや、課題を解決するために予想や仮説を立ててそれを検証する実験を計画することに課題があります。

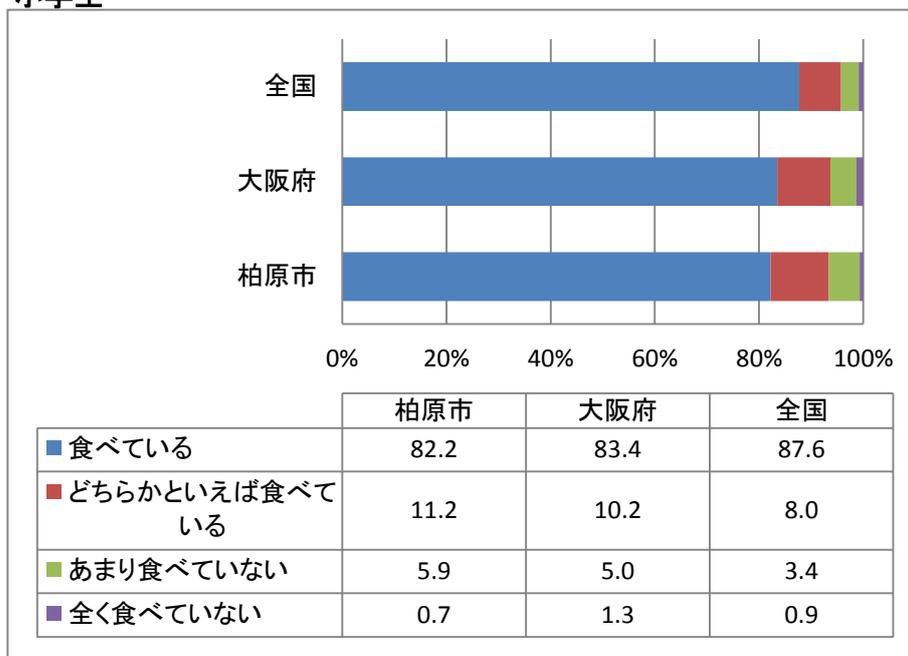
生活習慣や学習環境に関する質問紙調査結果の概要

生活習慣に関する質問紙調査結果の概要

①朝食

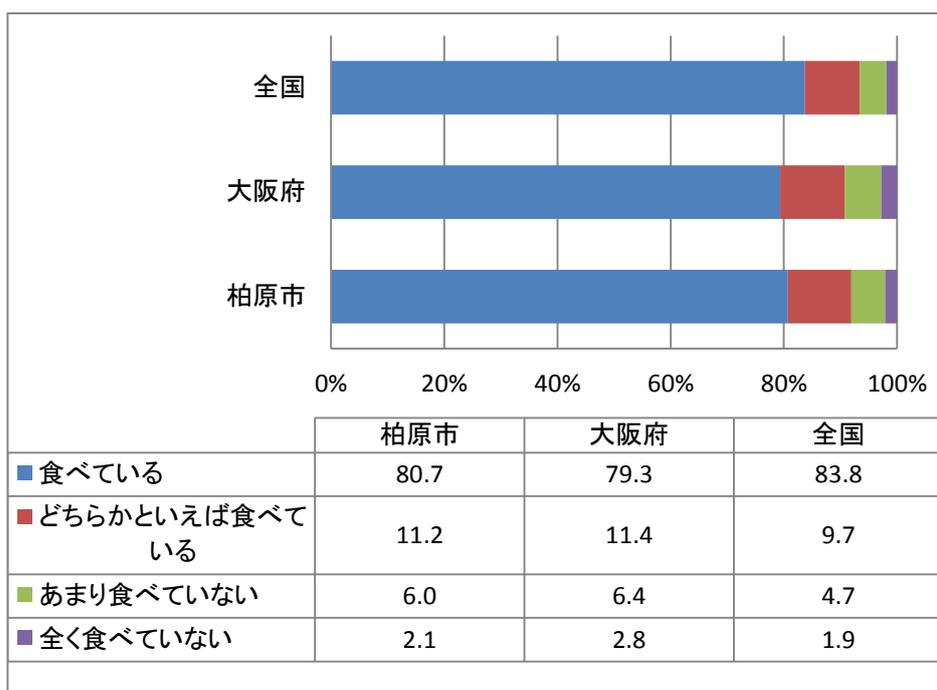
「朝食を毎日食べていますか」

小学生



朝食を食べている本市の児童の割合は全国、府より少し低い。朝食を食べている児童はそうでない児童より正答率が高い傾向にある。

中学生

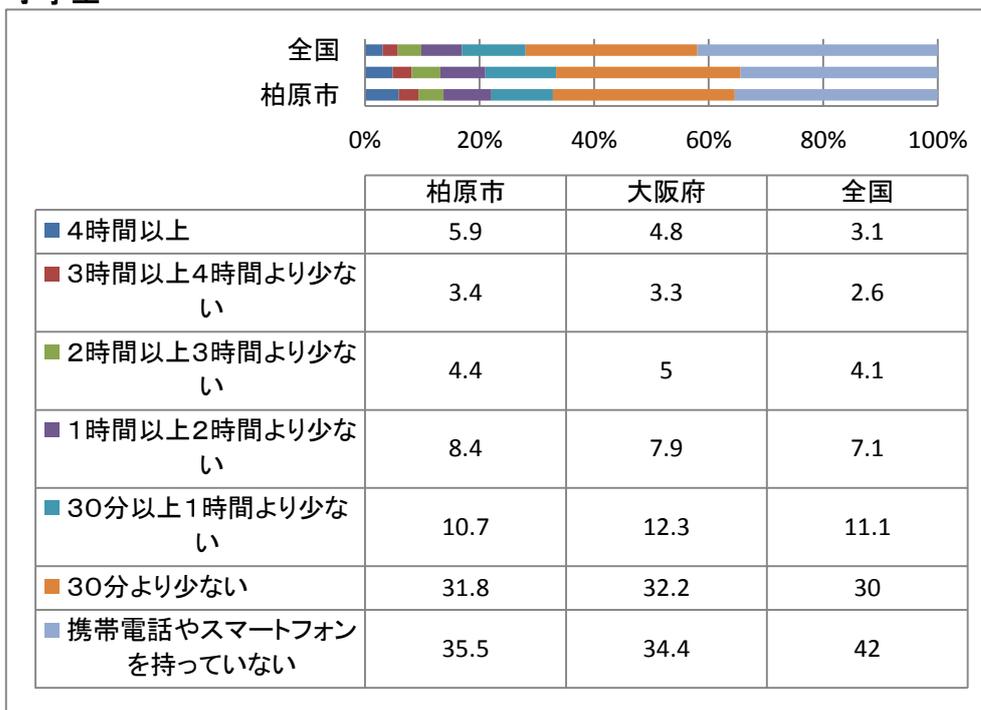


朝食を食べている本市の生徒の割合は府より少し高く、全国より少し低い。朝食を食べている生徒はそうでない生徒に比べ、全ての教科において正答率が高い傾向にある。

②スマートフォン

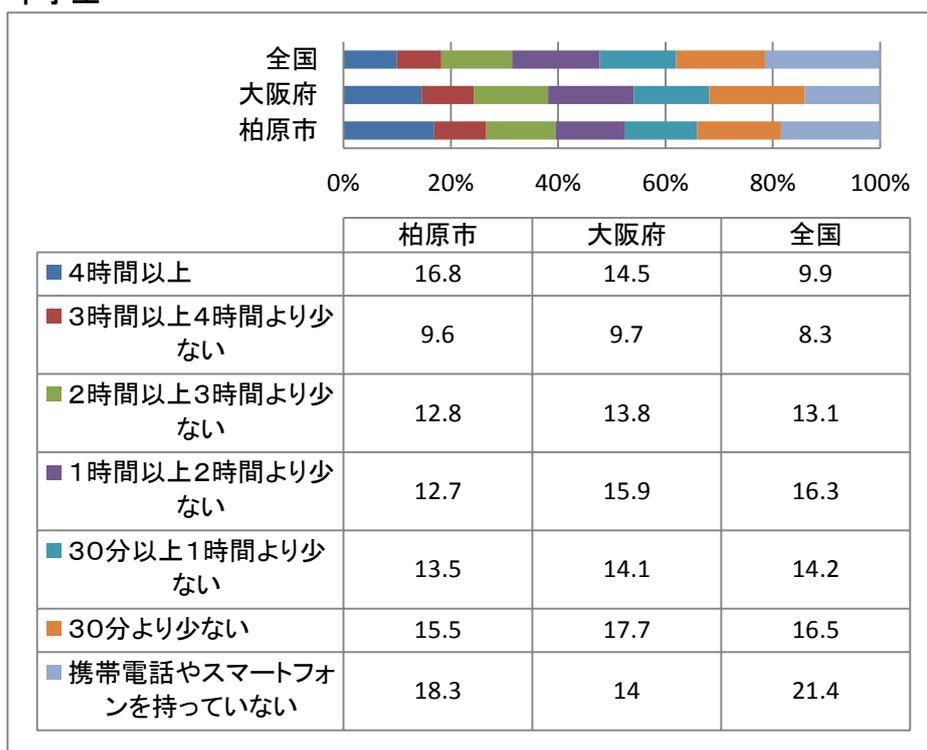
「普段(月曜日から金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, 携帯電話やスマートフォンで通話やメール, インターネットをしますか。(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除きます)」

小学生



携帯電話やスマートフォンの所持状況は大阪府と同程度で、全国より少し多い。4時間以上使用している児童の割合が、全国に比べ約2倍と顕著な差がある。クロス集計の結果、携帯電話やスマートフォンを長時間使用するほど正答率が低下する傾向にある。

中学生



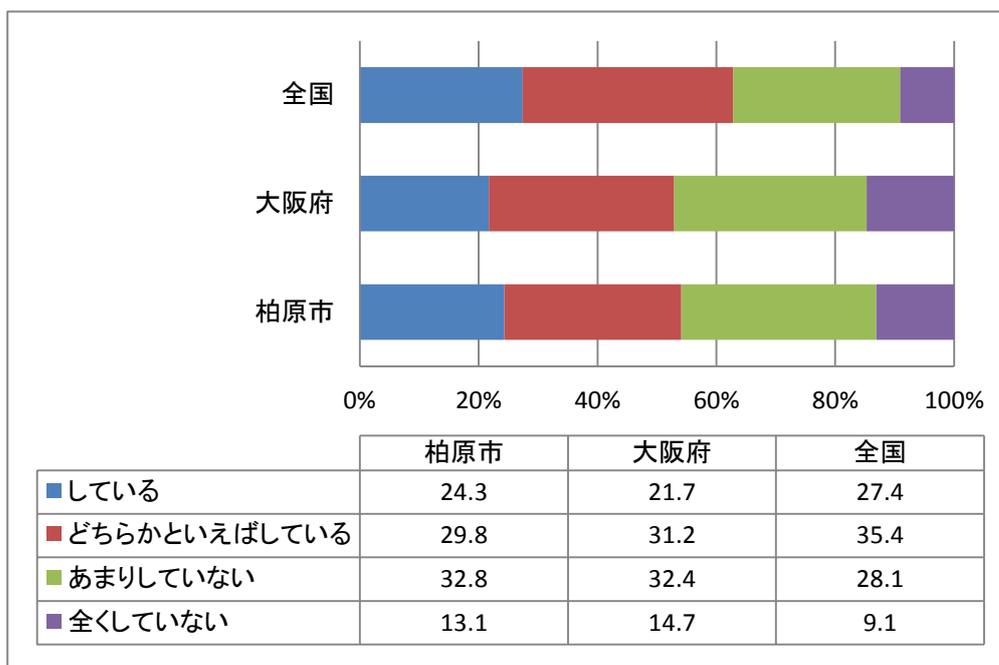
小学校の結果と同様に、4時間以上使用している生徒の割合が、全国に比べ2倍近い値を示しており、顕著な差がある。クロス集計の結果は小学校と同様に、長時間使用するほど正答率が低下する傾向にある。

家庭学習、学習意欲の概要

①学習計画

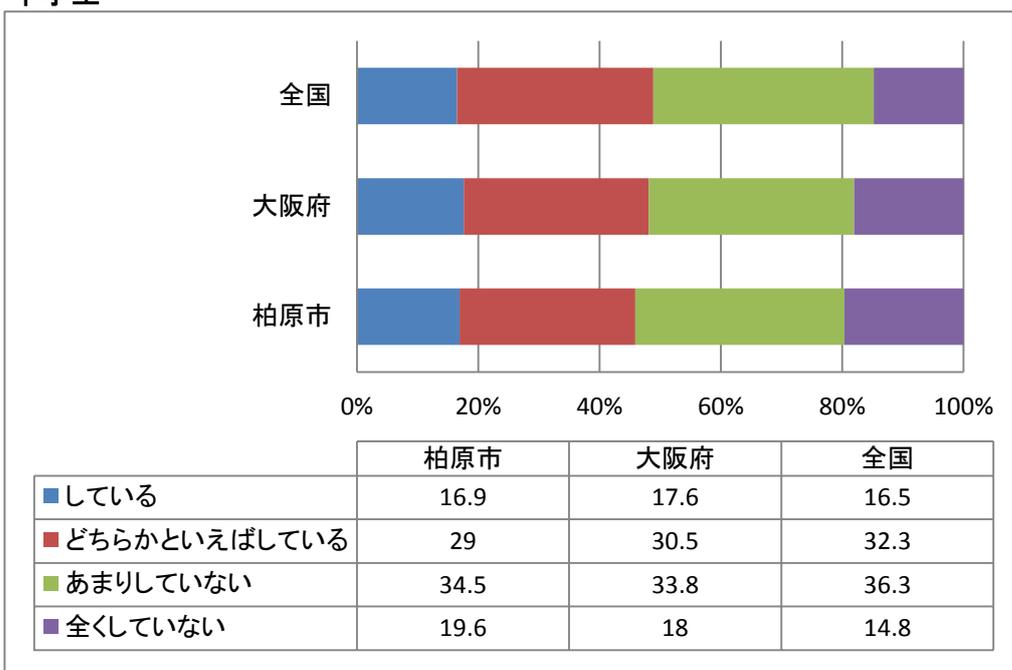
「自分で計画を立てて勉強をしますか」

小学生



自分で計画を立てて勉強していると肯定的に答えた本市児童の割合は、大阪府と同程度であるが、全国に比べ約10%低い値を示している。

中学生

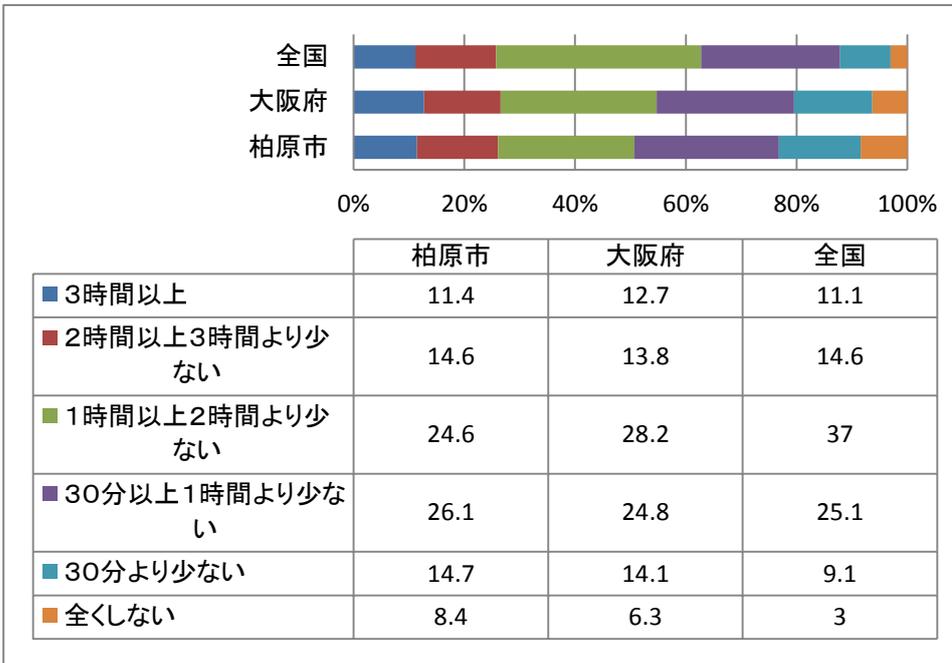


自分で計画を立てて勉強していると肯定的に答えた本市生徒の割合は、全国・府を若干下回っている。全くしていない生徒の割合は、全国・府に比べ高い値を示している。

②家庭学習

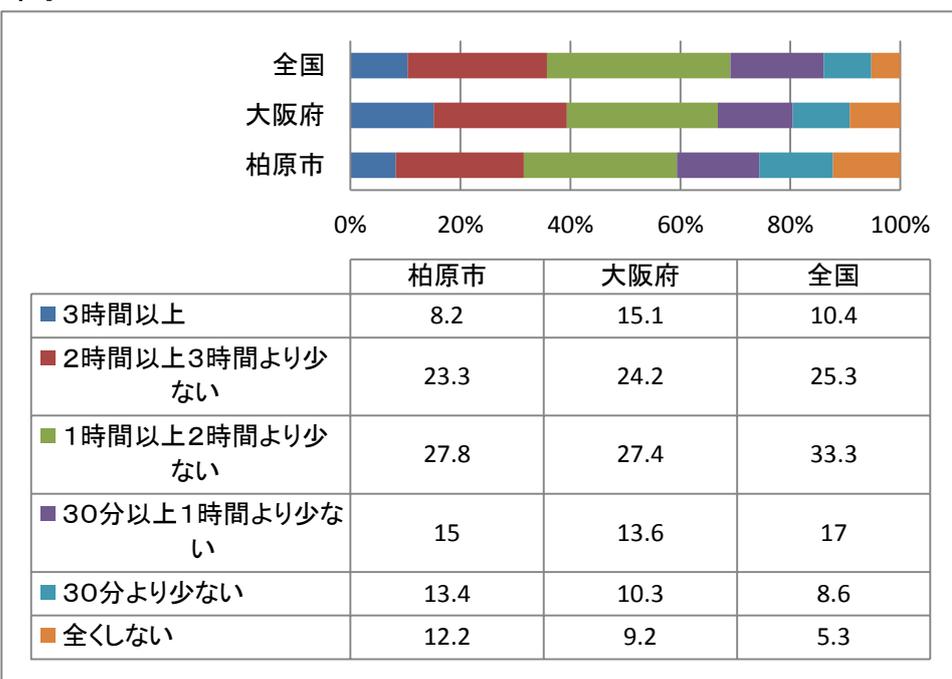
「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, 勉強しますか。(学習塾や家庭教師含む)」

小学生



平日2時間以上家庭学習に取り組んでいる児童の割合は、全国・府とほぼ同じ値である。しかしながら、30分未満の学習にとどまる児童の割合は全国・府より高くなっている。

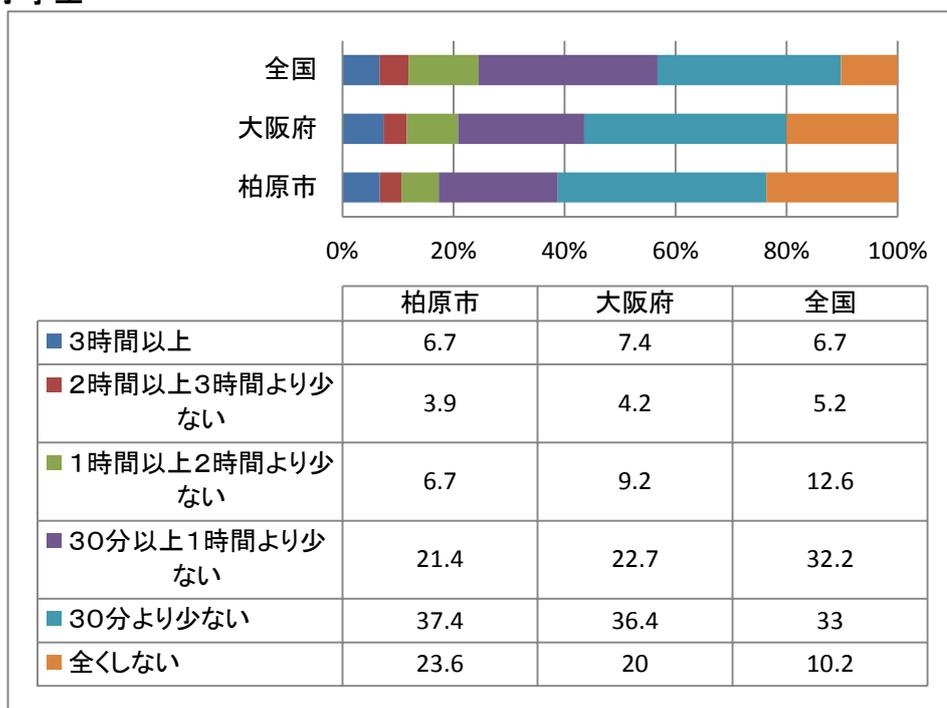
中学生



平日の家庭学習の時間が1時間以下である本市生徒の割合は4割となっている。3時間以上、家庭学習をする生徒の割合も全国・府に比べ低くなっている。

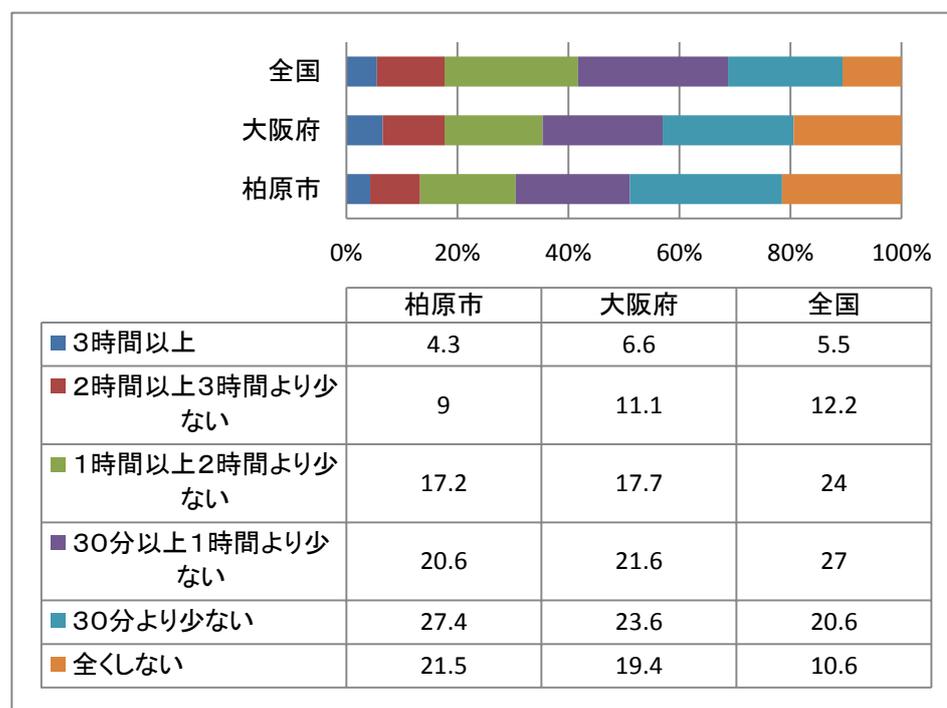
「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾や家庭教師含む)」

小学生



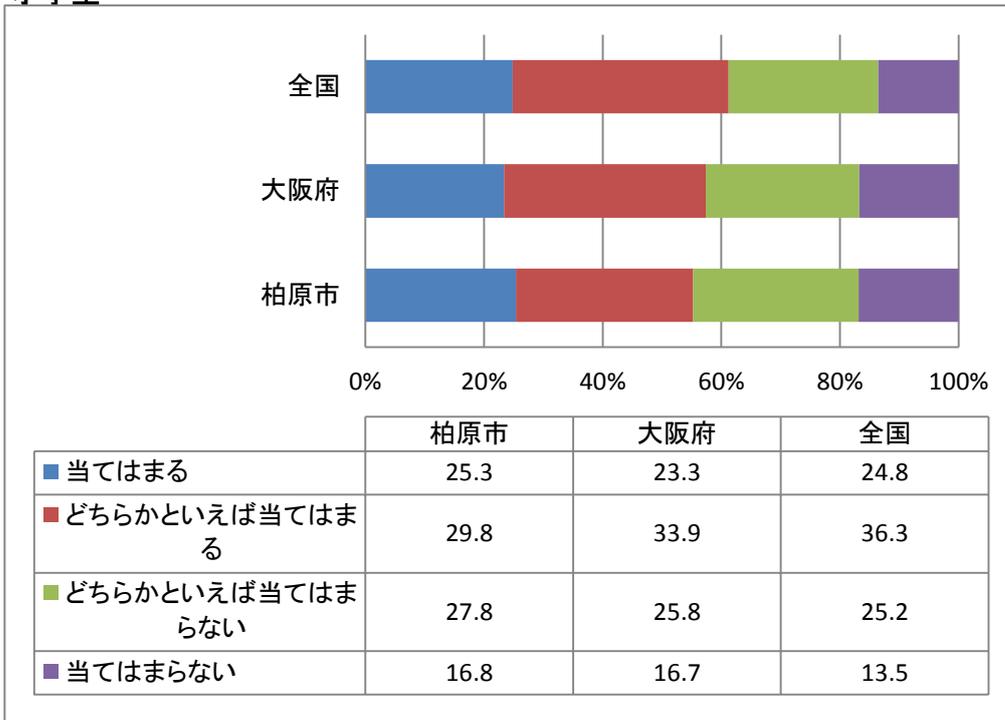
休日3時間以上学習する本市児童の割合は、府よりやや低いものの全国と同じ値である。しかしながら、30分未満の児童の割合は、全国と比べ顕著な差が見られる。

中学生



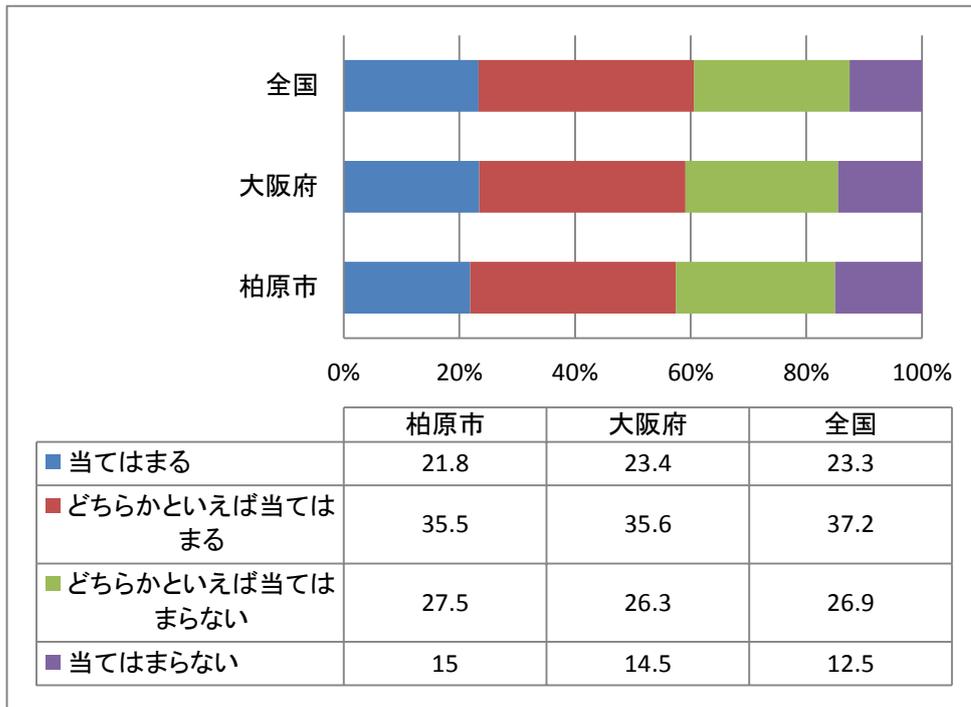
休日の家庭学習の時間が1時間以下である本市生徒の割合は約7割となっている。

③学習意欲
「国語の勉強は好きですか。」
小学生



本市児童の国語に対する意識は、全国・府と大きな差は見られないが、全国に比べると、府と同様に肯定的な回答をしている児童の割合がやや低くなっている。

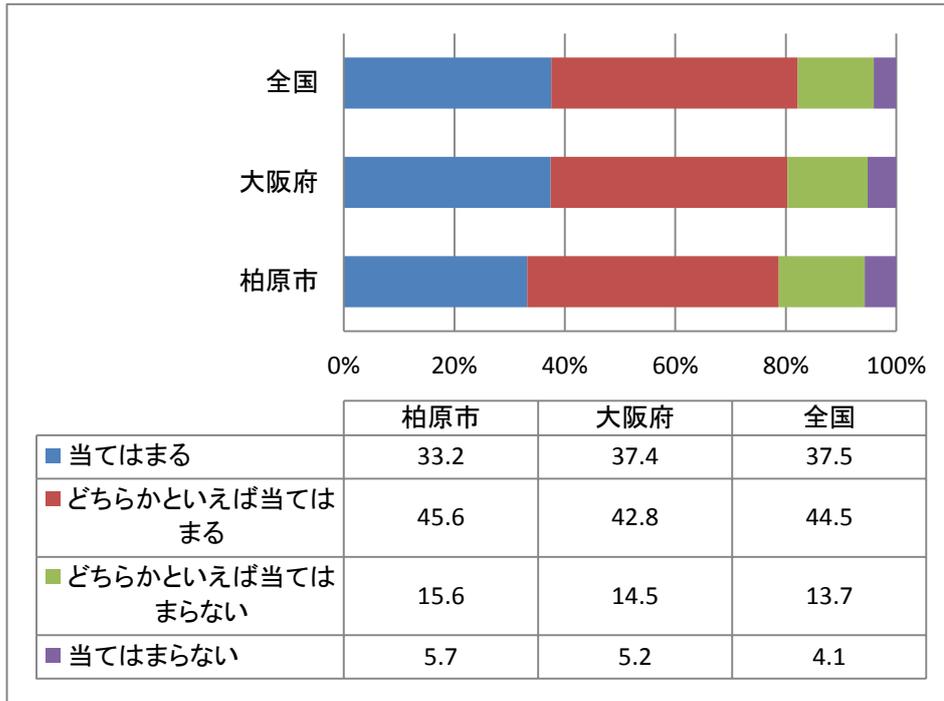
中学生



本市生徒の国語に対する意識は、全国・府と大きな差は見られないが、全国・府に比べ、肯定的な回答をしている生徒の割合がやや低くなっている。

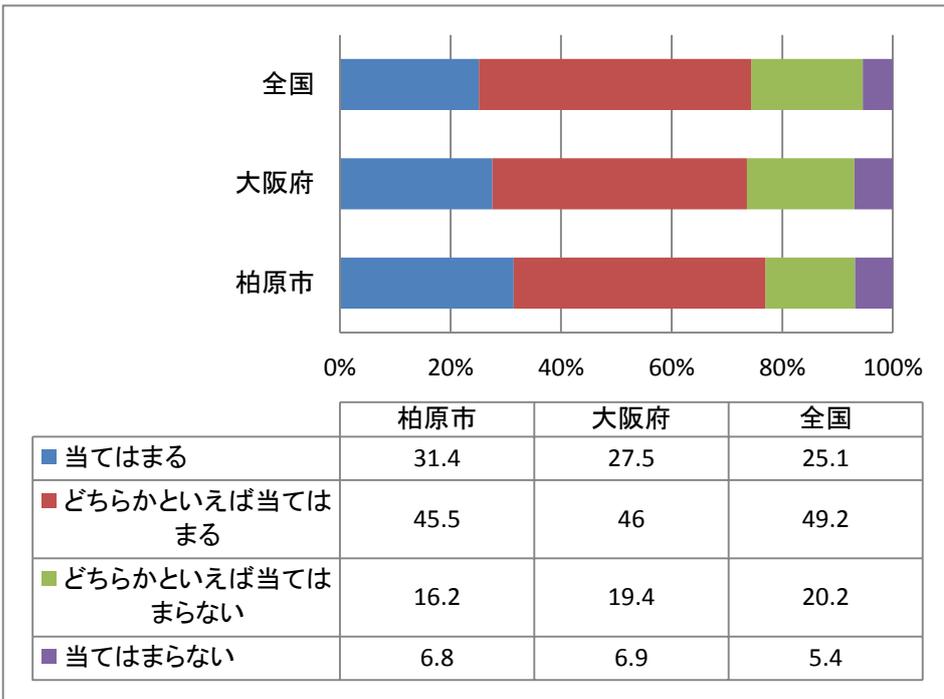
「国語の授業の内容はよく分かりますか」

小学生



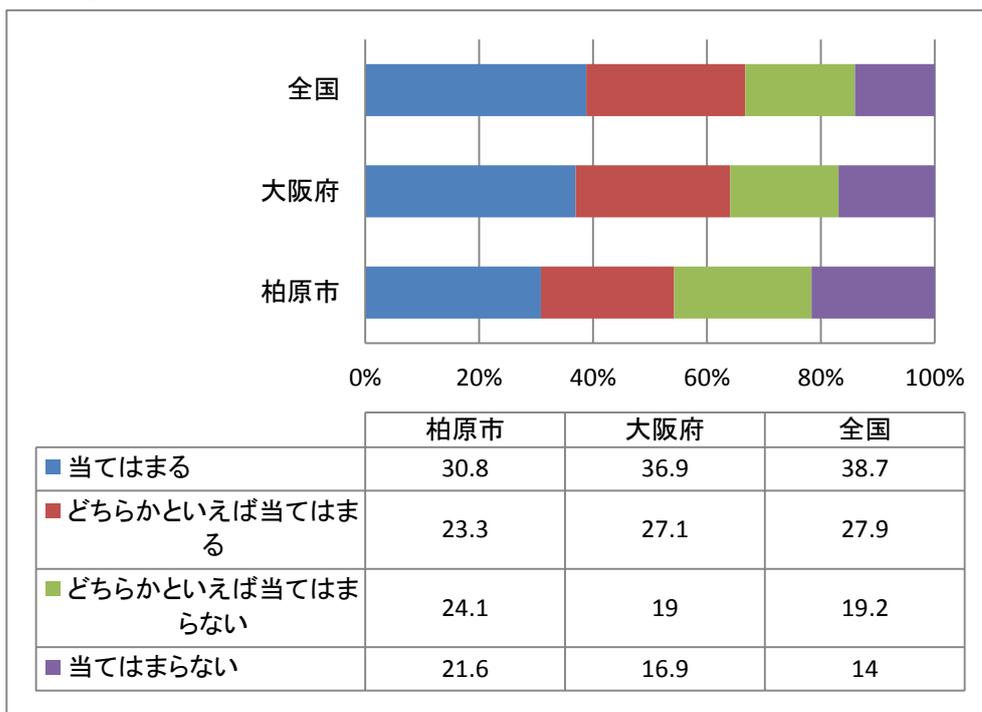
本市児童の国語に対する理解度について、肯定的な回答をしている児童は全国・府よりやや低くなっている。

中学生



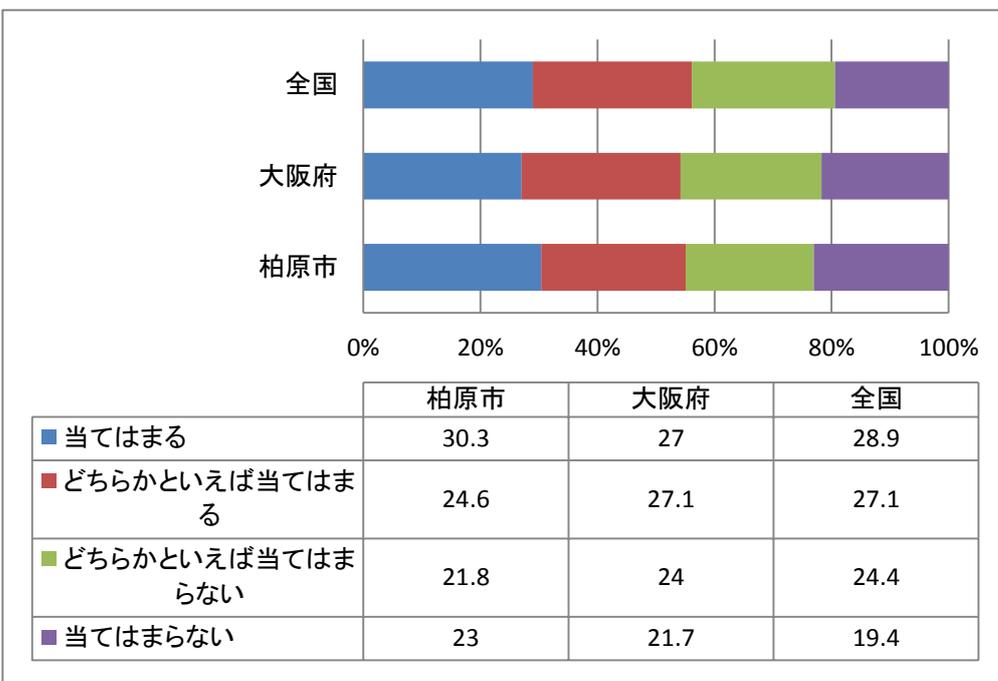
本市生徒の国語に対する理解度について、肯定的な回答をしている生徒の割合は全国・府と比べて高くなっている。

「算数の勉強は好きですか。」 小学生



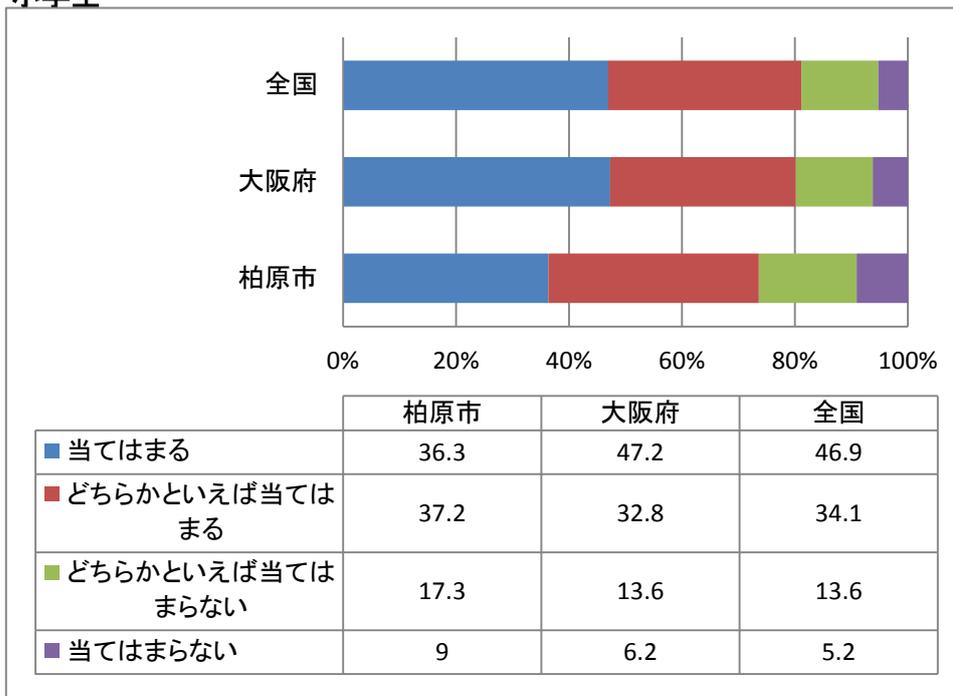
本市児童の算数に対する意識について、肯定的な回答をしている割合は約5割であり、全国・府と比べると低くなっている。

中学生



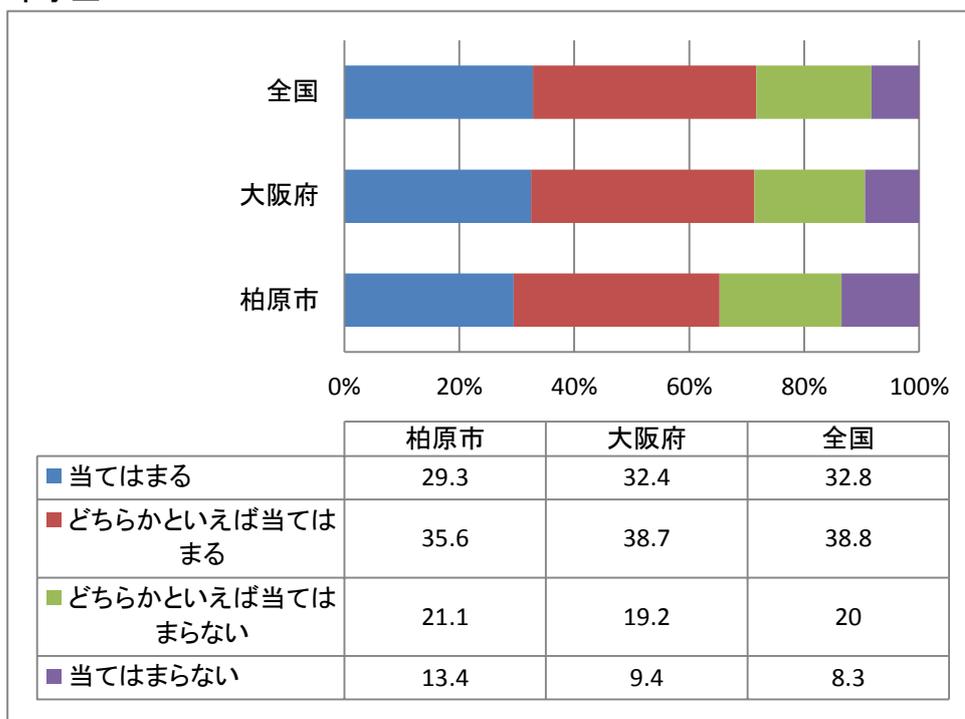
本市生徒の数学に対する意識について、肯定的な回答をしている割合は全国・府とほぼ同じである。

「算数・数学の授業の内容はよく分かりますか」 小学生



本市児童の算数に対する理解度について、7割強が肯定的な回答であったが、全国・府と比べて低くなっている。

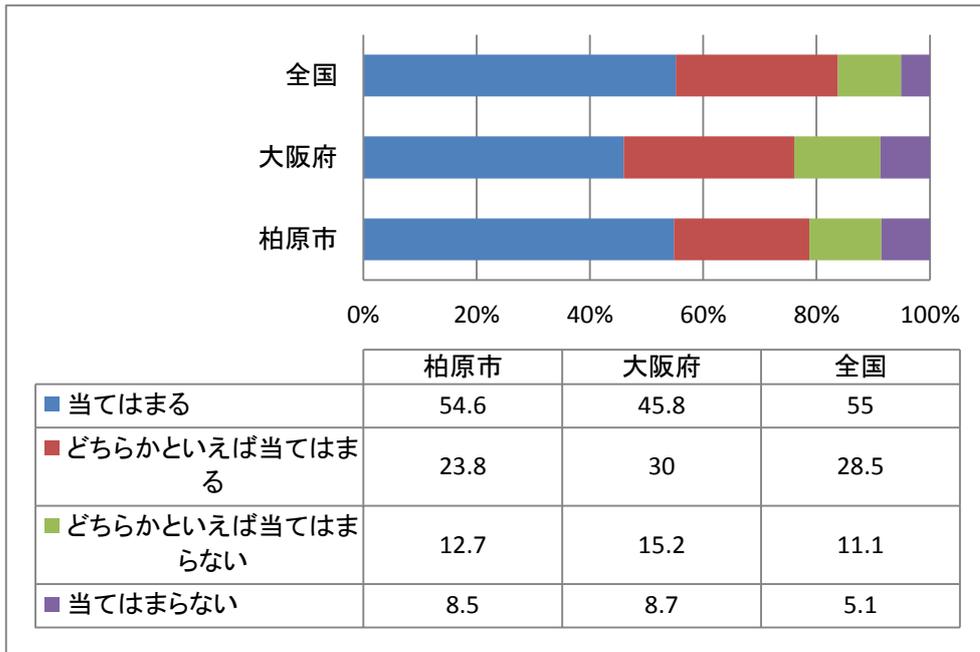
中学生



本市生徒の数学に対する理解度について、肯定的な回答が65%であり、全国・府と比べて低くなっている。

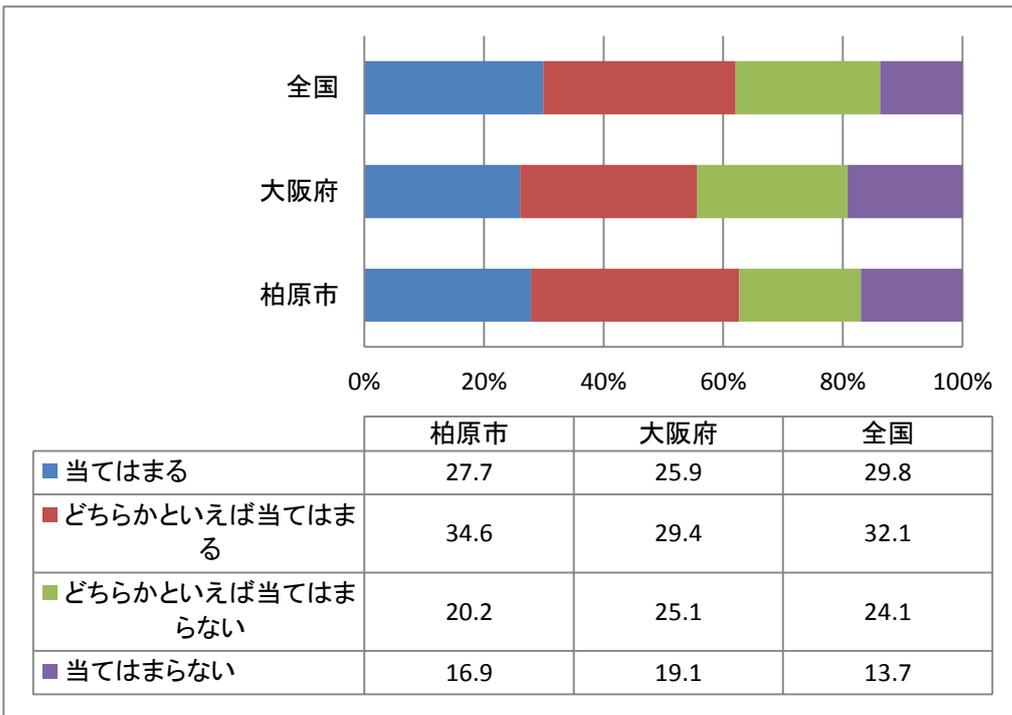
「理科の勉強は好きですか」

小学生



本市児童の理科に対する意識について、「当てはまる」と回答した児童の割合は府より高く、全国並みである。一方、「当てはまらない」と回答した児童の割合は府と同様に、全国と比べてやや高くなっている。

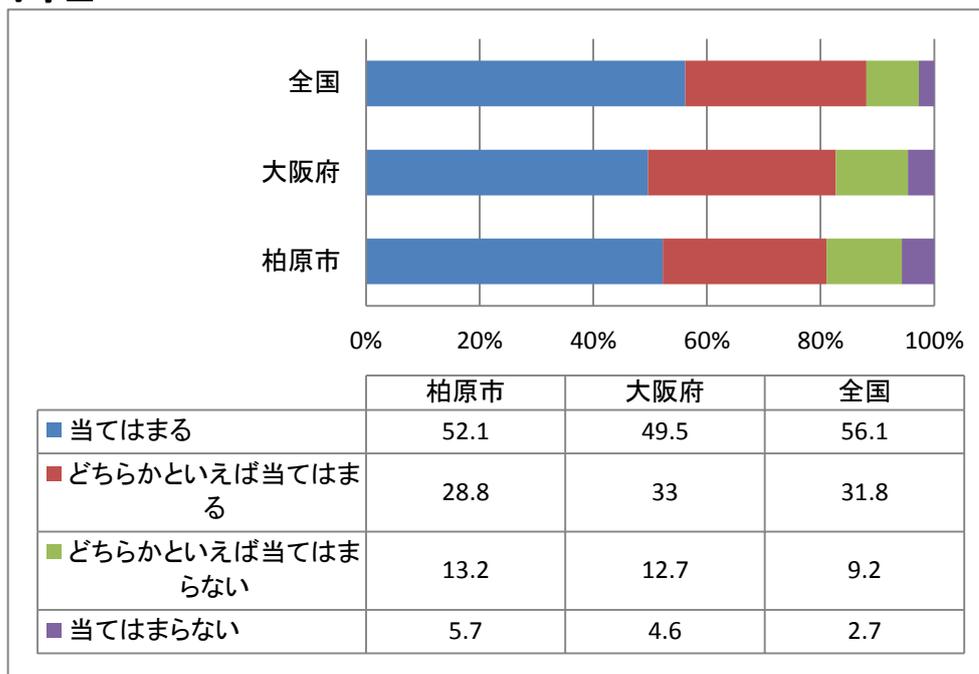
中学生



本市生徒の理科に対する意識について、肯定的な回答をしている割合は府より高く、全国並みである。

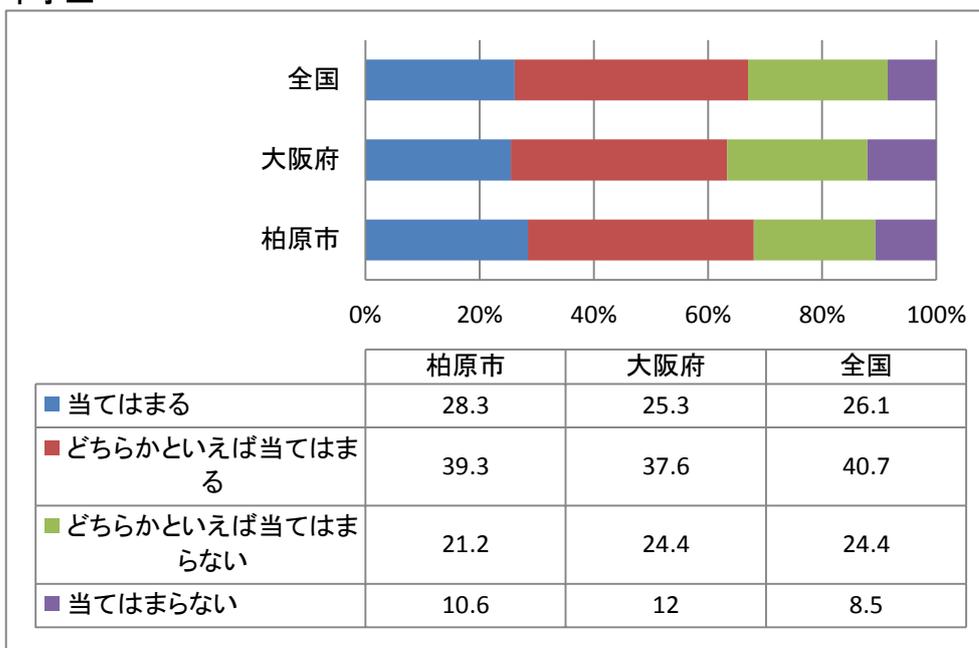
「理科の授業の内容はよく分かりますか」

小学生



本市児童の理科に対する理解度について、府とほぼ同じ傾向にある。全国と比べると、肯定的な回答が低くなっている。

中学生

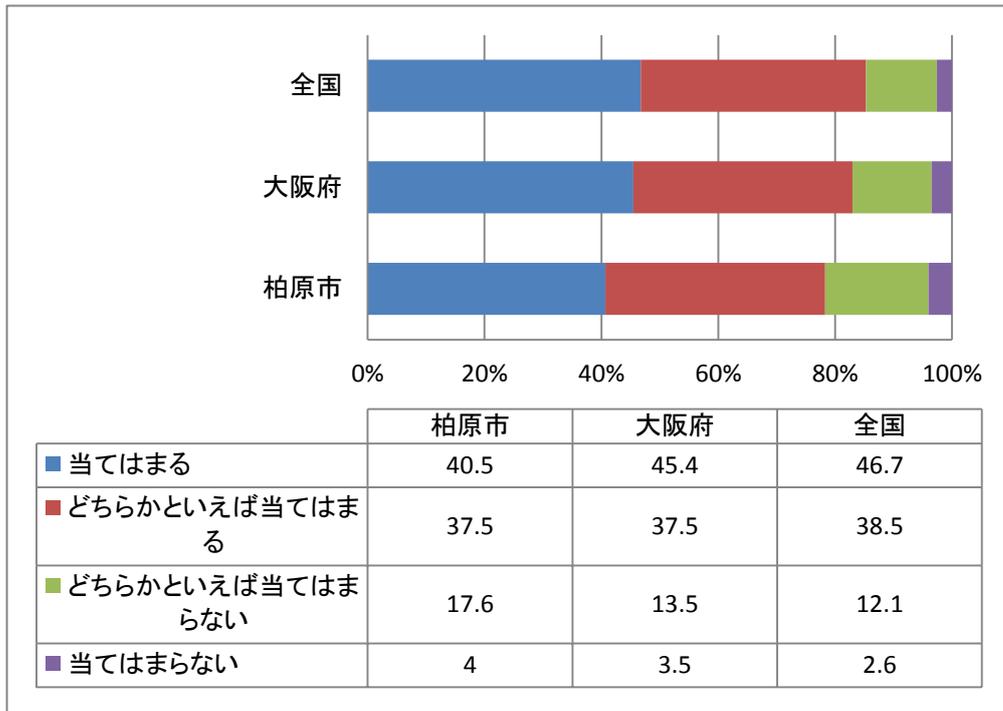


本市生徒の理科に対する理解度について、「当てはまる」と回答した生徒の割合は全国・府を上回っている。

本市の特徴的なものから

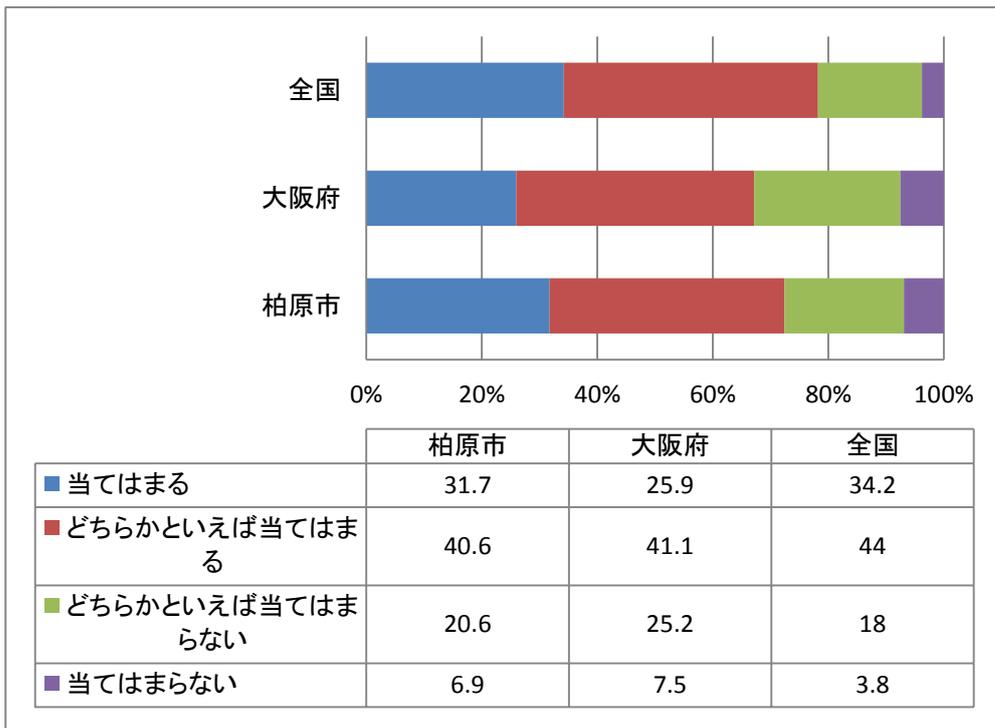
「普段の授業では、みんなと話し合う活動をよく行っている」

小学生



小学校では、話し合う活動をよく行っていると回答した児童の割合が全国・府よりやや低くなっている。

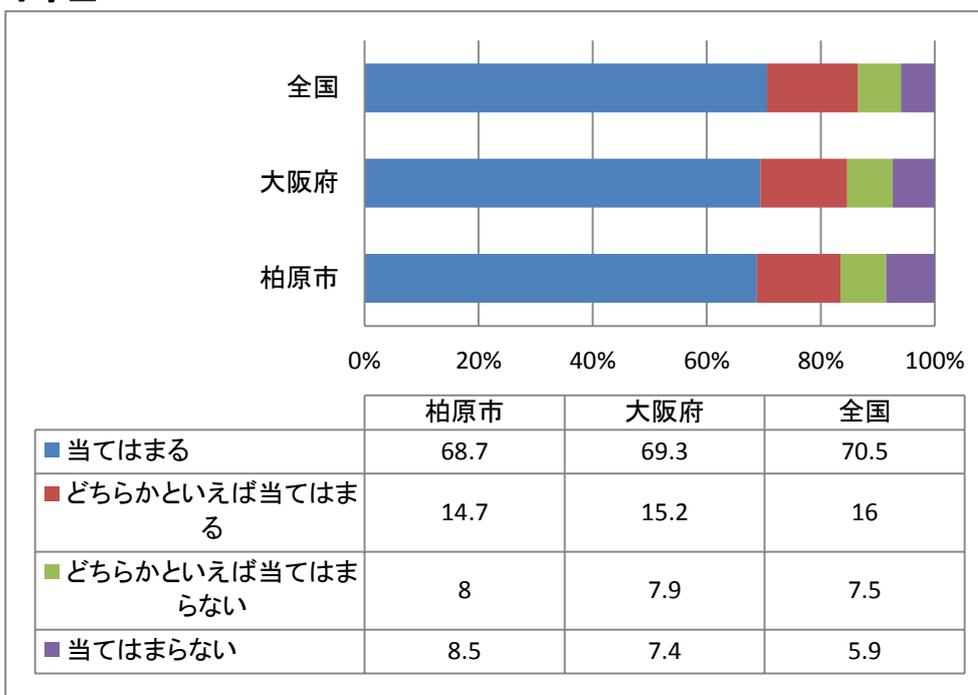
中学生



中学校では、話し合う活動をよく行っていると回答した生徒の割合が府より高く、全国よりやや低くなっている。

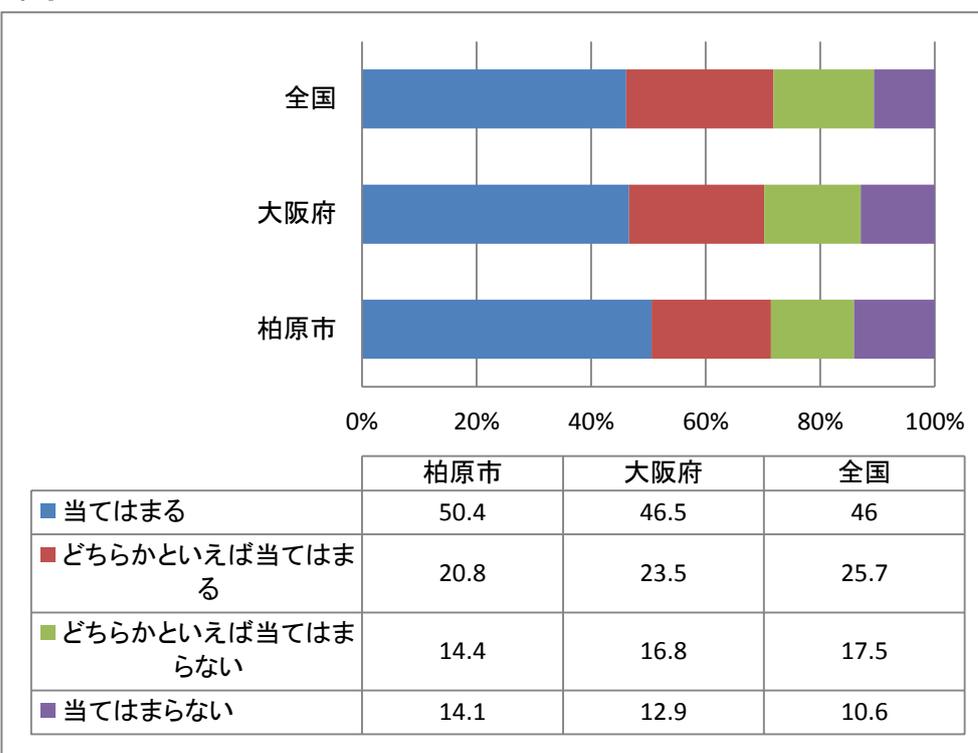
「将来の夢や目標を持っていますか」

小学生



小学校では全国・府とほぼ同じ傾向にある。「当てはまらない」と回答した児童の割合は、全国・府と比べてやや高くなっている。

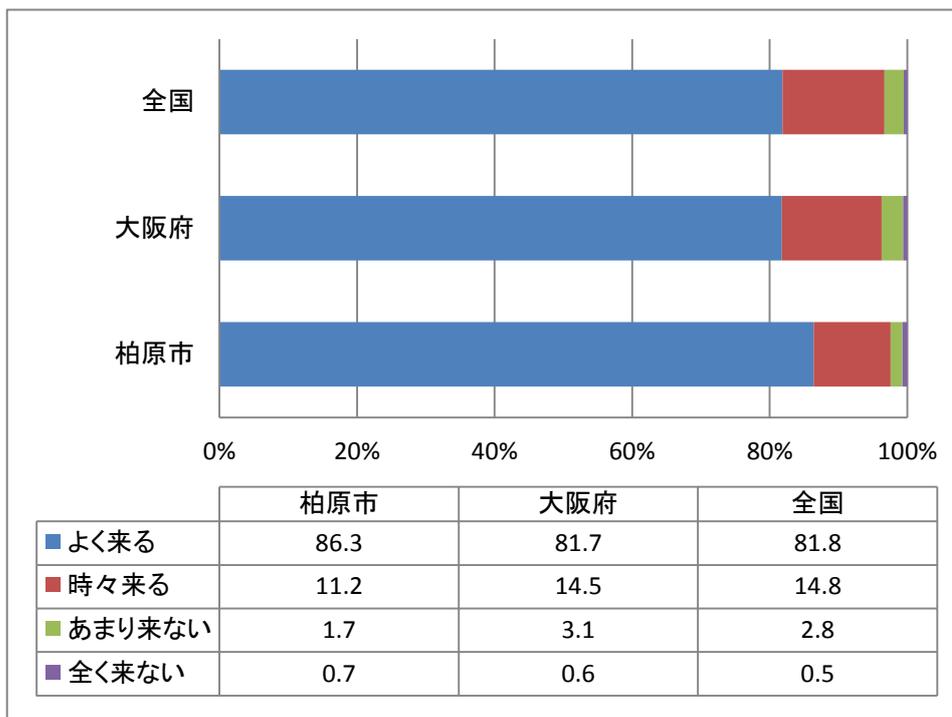
中学生



中学校では、「当てはまる」と回答した生徒の割合が全国・府より高くなっている。一方、「当てはまらない」と回答した割合も全国・府より高くなっている。

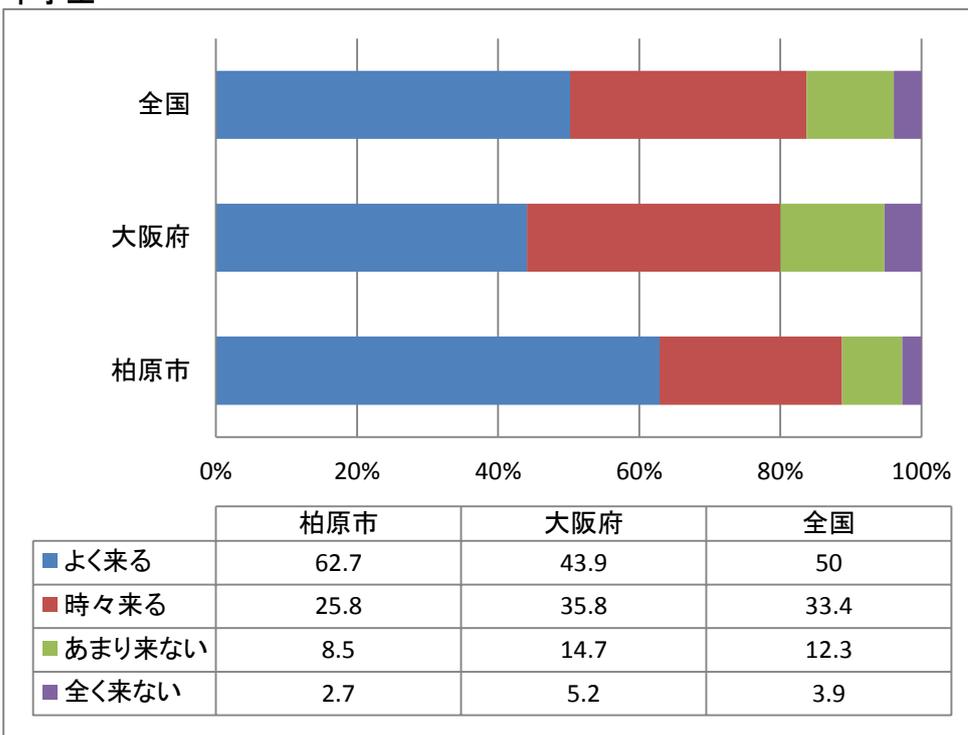
「家の人(兄弟姉妹を除く)は、授業参観や運動会などの学校の行事に来ますか」

小学生



本市児童の保護者は、全国・府と比べて、学校行事によく参加している。

中学生



本市生徒の保護者は、全国・府と比べて、学校行事によく参加している。